時事新報

第千三百二號
明治十九年六月十五日 火曜日
舊丙戌五月十四日(丙午)
日出午前四時廿五分 日入午後七時十六分 月出午後五時五十四分 月入午前三時四十三分 滿潮午前四時二十三分 午後四時四十九分
(西曆一千八百八十六年)

時事新報定價
一枚金三錢〇一箇月前金六十五錢〇三箇月前金一圓八十錢〇六箇月前金三圓四十錢〇一箇年前金六圓五十錢〇郵便税一箇月金廿六錢〇一箇年金三圓十二錢〇左ニ揭クル各地ニ於テハ該地賣捌所ヨリ郵送無料ニテ配達ス(但本社ヨリ直接郵送スルモノハ此限ニアラズ)
●東京●横濱、横須賀●神奈川、藤澤、大磯、小田原、函根七湯、韮山、修善寺、三島、沼津、原、吉原、興津、清水、静岡、濱松、島田、藤枝●大坂、京都、大津、和歌山●神戸、岡山、玉島、尾ノ道、福山、廣島、鞆、高知、下ノ關、長崎●名古屋、岐阜、四日市、桑名、津、松坂、山田●仙臺、福島、二本松、白石、石ノ巻、函館、青森、弘前●高崎、小諸、岩村田、上田●宇都宮、鹿沼、八王子、千住、越ケ谷、粕壁、銚子、佐原、千葉、佐倉、東金、八幡、船橋、市川
其他郵便配達便宜ノ個所ハ同レク郵送料不申受候

時事新報廣告料(前金)一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	七錢	六錢八厘
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢二厘	五錢九厘五毛
三十一行以上	八錢	六錢五厘	五錢八厘五毛	五錢五厘

時事新報

婦人の職業

我輩嘗て言へることあり國は文野に論なく婦人の位地は尚武の國ほど卑くして工藝の國に貴しと其故如何と云ふに兵馬の事は婦人の天性に於て耐ゆ可らざることにして此點に至ては婦人は男子に依賴して偏に其保護の恩を仰がざるを得ず即ち尚武の國に於て婦人の位地、男子に比して相懸隔する所以なれども工藝の事に至ては婦女の技倆必ずしも男子に讓らず或は一歩を讓ることあるも共に其間に周旋して相扶掖することを得るが故に婦人自から其能に食むの傾を生じ其品格亦隨て重きを加ふ可きなり然るに今世局の變遷を見れば世界文明の進歩と共に尚武の風は漸く減じ何れの國にても次第に工藝殖產の事は發達するなり婦人が其技倆を顯はして其品位を進むるの時期既に到來したりと申す可し元來婦人の性質は微妙なる部分に穎敏にして手藝心智特に此部分に向て發達するもの〻如し或る學者の說に何れの國の醫學にても男女同時に之を學べば女子の方平均して男子よりも速成するを常とすと又或る醫師の實驗に據るに病患の男女來て診察を乞ひ其疾病の容体を陳するに當り男子は叙を具すること粗略曖昧にして爲めに醫師を困却せしむることあれども婦女は其發病の前後を語り朝暮病勢の變遷等を述ぶるに平均して精密詳細ありと又世界周遊者の言に異域殊邦に入り道の迂直遠近を知らんとして之を男子に問へば往々詳細を欠くことあれども婦女の指導報告は旅行の前途を知るに最も有益なりと云ふ即ち女生の心智の微密穎敏なる働にして發して手藝上に現はるれば最も貴重す可き性質なるに我日本國に於ては此美性良質を空うして婦人の働と業務上に發達せしむるを許さず其手藝と云へば纔に裁縫音曲等に限るが如き姿となりしは蓋し古來の習慣男子の社會が獨り職を專らにして婦女を愚にせるの略を用ひ以て女生を壓抑するの因果なりと云ふ可し眼を轉じて歐米文明國の形勢を見れば近年工藝の發達と共に婦女の職業は益々増し種々たる其業、種々なる其手を以て電信局の技手となり鐵道局の書記と爲り宣教師と爲り教育家と爲り醫師と爲り書工と爲り新聞記者と爲り猶身の藝能を發揮して戸外活潑の職業に從事し一身獨立の計を爲りて苦樂百年他人に依賴するを要せず是にして婦人の位地は一層一層よりも上進して男女正しく相對峙し兩生相扶けて社會の全面を維持するものゝ如し抑も歐米社會ゐ斯る勢を成したる其原因は一にして足らず教育交際等の進歩素より與りて力ありと雖も女子職業の發達は其効最も大なりとの定評あれば目下我國に於て男尊女卑の風を破り國の元氣を増進せんとするには官の學校あり私の會社あり婦女子に相應の職業を授るの場所を設け婦人をして男子同樣戸外の職業に就かしむること肝要なる可し特に我國に於ては國の製造品にして婦人の手を借ふ可きもの少なからず國產第一流の養蠶製茶等は最も婦人の職業にして電信、郵便の取扱書圖、寫眞等の手藝も亦都て女流の長技なる可し中に就て我輩の最も後來ゐ屬望する所のものは醫術にして産科の如きは特に婦人の專業ゐ歸す可きものならん明治十六年の調査に據るに日本全國の產婆は一萬九千二百四十九人とあり此產婆等は一應の試驗を經て開業する由なれども其中の大數は皆舊と祇く探近莽するの輩、初めより學術の覺えあるものならねば難産に處して宜しきを得ざるのみならず仮令へ平産にても學理の智識に乏しきがために無益に勞して却て意外の禍を致すの談は我輩の往々耳にする所あり此際廣く世間の爲めを謀らば夙に醫學を研究したる專門女醫の數を增し世の產婦をして其健全を得せしむると衛生上最も肝要の事ならん近年歐洲諸國にても女醫學校の興るもの甚だ多し我輩は唯ゞの風に倣ふく日本國ゐも之を行はんと欲するのみ新に奇策を獻ずるものに非ざるなり或は從來の陋見を以て婦人は家政庖廚の煩務に當ると執るに難しなど云ふものもあらんなれども外に適當の職あれば戸内の事は之を婢僕に任じて可なり身に職藝を具へながら何を苦んで自から婢僕の爲す所を爲さゞる可らざるや謂れなきの甚しきものと云ふ可し婦女戸外に職業を求め男子を離れて自から糊口の資を得れば國中頗に一半の生產力を增すの姿にして公の經濟ゐ於て大ゐ補益あるのみならず婦人の位地も是に至て始めて幾層の高きを加ふるの實を見るべし左れば今我國ゐ於て婦人就職の道を講ずるは單ゐ當局者たる婦人の私のためのみならず天下經濟の點より見ても等閑ゐ附す可らざる所のものなり

官報

○第六十號

神奈川縣下箱根及栃木縣下日光へ三等電信分局ヲ置キ每年七月一日ヨリ九月三十日マテ開局ス其位置名稱左ノ如シ

位置	名稱
相模國足柄下郡箱根	箱根電信分局
同 下野國上都賀郡日光	同 日光電信分局

右告示ス
明治十九年六月十四日 遞信大臣榎本武揚

●虎列剌

道府縣	月日	新患者	死亡
大坂府	六月十二日	五十五人	四十五人
但シ四區西成郡ニ新患三十八人新舊死亡三十二人			
京都府	同	二十二人	二十二人
但シ上下兩京區ニ新患十一人新舊死亡八人			
兵庫縣	同	四十四人	四十一人
但シ神戸區ニ新患十八人新舊死亡十三人			
岡山縣	同	十五人	三人
廣島縣	同	五十五人	三十三人
和歌山縣	同	八人	二人
愛媛縣	六月十一日	四十五人	二十四人
同	同十二日	二十八人	十六人

○流行地外虎列剌 東京府麻布區新網町一丁目ゐ於て本月八日虎列剌に罹りたる男一人と同十一日死亡、富山縣本月七日より同八日迄新患二人、死亡一人、滋賀縣本月六日より同八日迄新患十一人、死亡五人、宮崎縣本月十日新患一人、熊本縣去月二十九日より本月二日迄新患二人、死亡二人あり(警視廳外四縣報告)

○清國人排斥組合(昨十四日の續)(本年六月十四日官報)

此の絶交手段たるや商業社會の爲には極めて恐るべきものにして昨日まで其の營業繁昌せし會社若くは製造所等にても一度絶交の通知を受るときは門前忽ち雀羅を張るの寂寥を來し再び之を回復するには容易ならざるが故に元來多く清人の手に成りたる卷烟草及鞋等を販賣する店頭には概して白人製造の二字を特更に揭出して其の清人の製造に非ることを明示す畫港に於て最も有名なる鞋商イランの如きは清人製造の鞋を販賣するとの風評頻なるより大に其の結果を怕れ日今店頭ゐ掲ぐるに公證人の公證せし書面を以て清人の手に成りたる鞋類は一足も店頭に之なき旨を誓へり以て絶交手段の商業社會の爲に不利なるを知るべし夫れ然り絶交手段を用ると斯の如くに至りては從前白人の清人に加へ來りし暴行威力は此を爲るかと云ふに決して然らず客年來ロックスプリング、ユーレカ、タコマ及シアトル等に於て清人に加へたるの暴行殺戮は既ゐ世に隱なきことなれば今日米國にて清人を放逐するに熱心なる者の有様を形容すれば有形上若くは無形上共に其の手段を用ゆるに汲々として暇なきものと云はざる可らず今清國人排斥組合が主として清人と嫌惡するの理由を揭ぐれば左の諸項にあるが如し

(第一)清人の米國に入るは移住にあらずして攻襲なり
(第二)清人と米國に在る間は獨身にして家族を有せず
(第三)清人の起居生活は異樣にして到底我が米人と親睦し交際を全ふすることを得ず
(第四)清人の教育及風習は大に我が共和政體ゐ害あり
(第五)清人は其の國人中篤に裁判所を設け其の裁判を奉じ我が法律を蔑視するものなり
(第六)外國政府に忠節を盡す所の數多の壯年男兒と居住せしむるは米國の爲に危險なり
(第七)清人あるが爲に他の勞働者はカリホルニヤ州に來らざるなり
(第八)清人が渡來する爲に結ぶ所の契約は殆ど奴隸類似の性質を帶び米國の制度に反對す
(第九)清人の米國に存在するとは我が米國少年幼女の中より着實なる勞働者の發達することを妨碍す
(第十)清人は其の所得中より些少の額を以て生活に充て其の餘と貯蓄し每年其の本國に送還す此の金高は實に幾百萬なるを知らず今清國人を放逐し之に代ゆるに米人の勞力を以てせば右の數百萬弗は米國に存留すべし

蓋清人移住を嫌惡するの情勢は其初に在りては清人の渡米し白人勞働者と競爭し次第に職工等の給料を低減し白人を壓倒せんとするの傾向ありしに起因し今に至るも其精神は尚此點に外ならずと雖も現今清人を放逐せんとするの目的は給料低減の一事に非ずして右に揭ぐる如く清人は共に齒すべからざる人種なりと云ふは獨之を口實とするのに非らず眞實之を思ふもの〻如し其の故何とあれば目今當國西部諸州に於て勞働社會は各自其の職業に就き組合を設け此の組合に於ては一人一日分の給額を定め置き此の額以下にて勞働するを許さず而して此の組合以外の職工を使用する會社若くは製造所等あれば忽ち支清人を使用するものゝ… 左れば何人と雖其の… にて勞働することを… あきに似たり然るゝ… 組合員たることを許…

雜報

○秋田通信 六月六日… 本縣鐵道布設請願委員… 今度青森縣鐵道布設… の二氏も歸縣の途次此… る三日本縣常備委員諸… きたり○奥羽七州の縣… 及農商の有志者は不日… 關する殖產興業の事に… の計畫を協議する由な… 況を加へもし此儀にて… 計るべからざるとて有志… なるが先づろの重なる… 道線路を改正し大土工… 下より土崎港までの汽… め以て同港と秋田町… といふ○過般官民者… は明後八日縣廳にて… 氏の數は千九百廿餘人… 〻の割合なる由

○沖縄日誌 五月三十… 五月二十八日 快晴… 前任縣令西村捨三氏(… 來着あり兩氏には此日… 共に警察本署、那覇警… 小學校、醫院、監獄署… 說教場に於く相撲及び… ノ寺に於てゝ舊夜烟火… 五月三十日 本日汽船… 久米、宮古、八重山島へ… 五十名と率ゐ八重山… 御用あり〻開けり同船… たるがゝゝ三井物產會… 石炭採掘の爲なり又同… 馬員四名と共に石炭坑… 表島の向ひなる與那國… が炭質は入表島のもの… 舊所在地は陸軍分遣隊… 交代し朝日丸ゝて出發… 深處と染拔たる手拭… 西村前縣令の送別會… 休笑遊方亦多事、三年… 揺たる團扇を夫々へ分… その席上にて當縣人… 前任不留、莫道賢勞… 別の詩を同氏に贈りた…

Were it not for "if" … rich for ever.
「若し」と「けれども」よ… 富裕なるべき書あり
If you cannot say …
言ふと能はざるとれけ…
"Mamma says it is not …